

自己評価について

A:十分できた B:大体できた C:あまりできなかった D:全くできなかった

I 学校の建学の精神・校訓・教育目標 A

体育祭や学校行事、生活規範等、生徒の自主的主体的な取り組みを進め、前例にとらわれず学校改革に着手した。校訓、建学の精神の具現化としての教育活動においては、各教員の日常の姿勢に反映されるべく平常の教育活動や教員集会にて周知徹底を図った。世代交代も進み、札幌大谷としての教育理念の共有化が今後の大きな課題となる。建学の精神に深く関わる宗教的行事は、つつがなく執り行うことができた。

II 中高グランドデザイン B

中高の教育指針として学校案内への掲載、学校公開などで丁寧に説明した。この方針に従ってそれぞれの部署が、グランドデザインを具現化する方針立てをし、実践してきた。

III 学習指導

- (1)専門性を高め、教科指導力を向上させる B
- (2)生徒の学習意欲を喚起できる、生きた教科指導をする B
- (3)生徒の進路達成欲求に答えられる、受験指導能力を身につける A
- (4)学習習慣作りのための具体的展開を実行する B

私学にあっては「魅力ある授業・力をつける授業」を展開することが、生き残りのための必須条件である。そのため、教員個々人の教科指導に対する意識を向上させ、魅力ある授業者となるための、意識改革と研鑽を積むことが必要となる。札幌大谷に入って「力がついた、学力が向上した」と実感できるような授業を展開するべく研鑽を積みたい。

平常の授業に加え、朝学習や講座、予備門などをより充実させていくことが必須である。次年度全校上げて、改善のための取り組みを行う。

中学 Eminence プログラムを質・数ともに充実させることが学校として最重要な課題である。将来高校へ上がってくることを踏まえて、よりよい取り組みができるよう各部署で検討し、実践していく。

IV 生徒指導 「時を守り 場を清め 礼を正す」

- (1)挨拶の励行 A
- (2)清掃の充実 A

(3)時間の厳守 A

(4)規範・規定遵守の徹底 B

クラブ活動生徒を中心に挨拶の徹底がなされており、自ずと他の生徒たちも挨拶をしっかりとできるようになっている。学年集会での意識付けも丁寧に行っており、学校全体として規律ある生活規範が保たれている。学校全体の清掃については校務が担当しているが、教室内や廊下については生徒が担当している。全体的に清掃は行き届いていると言える。

生徒指導事項に対する対応については、スクールコンプライアンスを再確認し、それぞれの教員が丁寧に対応することが求められている。報告・連絡・相談の徹底や管理職・生徒指導部・学年・保護者の連携をしっかりと取ることを心がけた。

学校の規範や規則についてはその内容を吟味し、現状に遇わないものは大きく変更した。特に、携帯電話の扱い等については生徒の意見を吸収しながら、新しい方向性を提示した。携帯に関わる生徒指導事項が起きたが、学校として適切に対応し、生徒たちに自ら考える機会を多く与えることができた。

また、様々な生徒指導事項についてはその処置等について、管理職会議で審議し方向性を出すようにした。処置内容についてもフローチャート化し、判断にブレが無いように整理をした。

V その他（次年度に向けて）

- ・以前から行われてきたこと慣習として行われてきたこと、すべての学校業務を根本から見直し、自分たちでしっかり考え、新しい教育活動を展開する
- ・学校行事の精選と企画の見直しを行う
- ・スクールコンプライアンスの研修を実施する
- ・生徒募集・広報戦略の強化を図る
- ・校務運営組織の改善を図り、組織の効率化・業務の見直しをする
- ・クラブ募集の充実を図る
- ・中高大の連携を強化する（特に社会学部・短大保育科）
- ・本校舎各教室へ、冷風機を設置した。今後は校内蛍光灯のLED化に取り組んでいく。
- ・新入生の奨学金の点検
- ・クロムブックを学習活動に有用活用するための研究、実践を行う。